

45.われは確かにムーサーに啓典を授けたのだが、それに就いて異論が起こった。もし主から（審判の時に就いて）前もって、御言葉が下っていなかったならば、その時かれらの間は解決されていたであろう。だがかれらはまだ疑いを抱き半信半疑でいる。

46.善行をなす者は自分を益し、悪行をなす者は自分を損なう。あなたがたの主は、そのしもべを不正に取り扱われない。

47.（審判の）時に関する知識は、かれだけが知るどころ。かれが知らずに、一つの果実も、その外皮から出てくるものではない。また女や雌が子を宿すことも分娩することもない。その日、かれらに尋ねられる。「われの同僚とやら（の偶像たち）は、何処にいるのか。」かれらは申し上げよう。「あなたに御伝えます。わたしたちの中には一人の証人もおりません。」

48.かれらが先に拝していたものたちは、かれらを捨てて隠れてしまい、そこでかれらは、逃げ場もないことが分る。

49.人間は幸福を祈って、疲れることをしらない。だが不幸に見舞われると、落胆し絶望してしまう。

50.災厄にあった後われの慈悲に浴させると、かれは必ず、「これはわたし（の力）には当然のことです。（審判の）時が、来るとは考えられません。また主に婦されても、わたしはかれの御許で、褒美をもらいます。」と言う。だがわれはこれら不信心の者に対し、その行ったことを示し、必ず手荒い懲罰を味わせる。

51.われが人間に恩恵を示せば、かれは脇を向いて、（われに近付かず反って）退き去る。だが一度災厄に会えば長々と十分に祈る。

52.言ってやるがいい。「あなたがたは考えないのか。もしそれが、（本当に）アッラーから（下された）ものであっても、あなたがたは信じないのか。遠く離れ去って分裂する者ほど、酷く迷った者が（外に）あろうか。」

53.われは、わが印が真理であることが、かれらに明白になるまで、（遠い）空の彼方において、またかれら自身の中において（示す）。本当にあなたがたの主は、凡てのことの立証者であられる。そのことだけでも十分ではないか。

54.ああ、かれらは主との会見に就いて疑っているのか。本当にかれこそは、凡てのものを取り囲む方であるのに。

SURA 42.相談章 [アッ・シューラー]

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1.ハー・ミーム。

2.アイン・スィーン・カーフ。

- 3.このように（主は）あなたに啓示なされる。以前の者たちにも啓示されたように。アッラーは、偉力ならびなく英明であられる。
- 4.天にあり地にある凡てのものは、かれの有である。かれは至高にして至大であられる。
- 5.諸天は、その上の方から、ばらばらに裂けようとしている。そして天使たちは、主を讃えて唱念し、地上のもののために赦しを請い願う。ああ、本当にアッラーこそは、寛容にして慈悲深くあられる。
- 6.それでもかれの外に、保護者を求める者がおり、アッラーはかれらを監視なされる。だからあなたは、かれらの後見人ではない。
- 7.このようにアラビア語でクルアーンをあなたに啓示したのは、あなたが諸都市の母と、その周辺の者に警告し、また疑いの余地のない召集の日に就いて、（かれらに）警告を与えるためである。（その日）一団は樂園に、また一団は業火の中に（入ろう）。
- 8.もしアッラーが御望・なら、かれらを一つのウンマになされたであろう。だがかれは、御心に適う者を慈悲の中に入らせられる。悪い行いの者には、保護者も援助者もない。
- 9.何とかかれらは、かれを差し置いて、守護者を求めるのか。だがアッラーこそ守護者であり、また死んだものに生を授ける方、凡てのことに全能な方である。
- 10.何事によらず、あなたがたに異論があった時、その決定をするのはアッラーである。これが、わたしの主アッラーである。かれに、わたしは御(艇?)りし、かれにわたしは悔悟して帰る。
- 11.天と地の創造者。かれはあなたがたのために、あなたがたの間から夫婦を、また家畜にも雌雄を創られた。このようにして、あなたがたを繁殖させる。かれに比べられるものは何もない。かれは全聴にして凡てを見透される方である。
- 12.天と地の凡ての鍵は、かれに属する。かれは、御心に適う者に、恵・を広げ、またひき締められる。本当にかれは凡てのことを知り尽される。
- 13.かれがあなたに定められる教えは、ヌーフに命じられたものと同じものである。われはそれをあなたに啓示し、またそれを、イブラーヒーム、ムーサー、イーサーに対しても（同様に）命じた。「その教えを打ち立て、その間に分派を作ってはならない。」あなたが招くこの教えは、多神教徒にとっては重大事である。アッラーは御心に適う者を御自分のために御選びになり、また悔悟して（主に）帰る者をかれ（の道）に導かれる。
- 14.知識がかれらに下った後、間もなくかれらの間の嫉妬によって分派が出来た。定められた時に関し、あなたの主からの御言葉がなかったならば、（問題は）かれらの間でとつくに解決されたであろう。だがかれらの後、啓典を継いでいる者たちはそれに就いて（未だに）疑いを抱いている。
- 15.だからあなたは（人を純正な教えに）招き、命じられたように堅忍不拔であれ。かれらの（虚しい）望・に従ってはならない。そして言うてやるがいい。「わたしはアッラーが下された啓

典を信奉する。わたしはあなたがたの間を公正に統治するよう命じられた。アッラーはわたしたちの主であり、あなたがたの主であられる。わたしたちには、わたしたちの行いの報いがあり、またあなたがたには、あなたがたの行いの報いがある。わたしたちとあなたがたとの間に、異論などはないのである。アッラーは、わたしたちを（一緒に）召集されよう。かれこそが（わたしたちの）帰る所なのである。」

16.この（イスラーム）が（多くの者に）受け入れられた後アッラー（の教え）に就いて云々する者の論議は、主の御許では無益で、そのような（者たち）は御怒りを被り、厳しい懲罰を受けよう。

17.アッラーこそは、真理の啓典と秤を下された方である。その「時」が近いということ、あなたがたに理解させるものは何であろうか。

18.それ（時）を信じない者はそれを催促するが、信仰する者は、それが真理であることを知っているので、恐れる。本当に時に就いて論議する者は、遠く迷っている者たちである。

19.アッラーはそのしもべに対して、やさしくあられ、御心に適う者に恵・を与えられる。かれは強大にして偉力ならびなき方である。

20.来世の耕作を願う者にはわれはその収穫を増し、また現世の耕作を願う者には、その望むだけを与えよう。だがその者には、来世での分け前はないのである。

21.それともかれらに（主の）同位者があって、アッラーが御許しになられない宗教をかれらのために立てたのか。決定的（猶予の）御言葉がなかったならば、かれらのことはとつくに裁かれていた。悪い行いの者は本当に痛ましい懲罰を受けるであろう。

22.あなたは悪行の者たちが、その行ったこと（の罪）が、自分たちに降りかかると、恐れ戦くのを見るであろう。しかし信仰して善行に動しむ者は、樂園の心地よい緑の野にいて、主の御許から、その望むところのものが得られよう。それこそは、偉大な恩恵である。

23.それは信仰して善行に勤しむしもべに対し、アッラーが伝える吉報である。言つてやるがいい。「わたしはそれに対して、何の報酬もあなたがたに求めてはいない。わたしはあなたがたの近親としての情愛だけを求める。それで誰でも、善行をなす者には、それに対しさらに良いものが与えられる。本当にアッラーは、寛容にしてよく感謝される方である。」

24.それともかれらは、「かれ（ムハンマド）はアッラーについて嘘をでっち上げた。」と言うのか。アッラーが御望・ならば、あなたの心を封じること出来る。またアッラーは、その御言葉によって虚偽を消し、真理を打ち立てることも出来る。本当にかれは胸の中に抱くことを知り尽される。

25.かれこそは、しもべたちの悔悟を受け入れ、様々な罪を許し、あなたがたの行うことを知っておられる。

26.かれは信仰して善行に動しむ者に答えて、恩恵を増やされる。だが不信心な者に対しては、厳しい懲罰を科される。

- 27.もしアッラーが、そのしもべたちに対し過大に恵・を授けるならば、かれらはたちまち不正にはしる。しかし、かれは望むことを、適度に下される。本当にかれはそのしもべたちを熟知し監視なされる方である。
- 28.かれこそは（人びとが）絶望した時、雨を降らせ、慈悲を垂れられる方。かれは讚美すべき愛護者であられる。
- 29.天と地の創造と、その間に(捲?)き散らされた生きとし生ける物は、かれの印の中にある。またかれは、御望・の時に、一斉にかれらを召集なされる権能者である。
- 30.あなたがたに降りかかるどんな不幸も、あなたがたの手が稼いだものである。それでもかれは、（その）多くを赦される。
- 31.あなたがたは地上において、かれを挫くことは出来ない。あなたがたには、アッラーの外にどんな愛護者も援助者もないのである。
- 32.また、かれの印の一つは船で、それはちょうど海の中を進む山のようなものである。
- 33.もしかれの御心なら風を静められ、それで（船は）海面に泊ってしまう。本当にこの中には、よく耐え感謝する者への印がある。
- 34.またかれは、（人びとが）自ら犯した罪のために、それら（船）を難破させることも出来る。だが（その罪の）多くを許される。
- 35.しかし、われの印に就いて論議する者は、免れる場もないことを知るであろう。
- 36.あなたがたに与えられる凡てのものは、現世の生活における（暫しの）享楽（に過ぎない）。信仰して、主を信頼する者にとっては、アッラーの御許にあるものこそ、もっとも善であり、はるかに永続する。
- 37.また、大罪や破廉恥な行為を避ける者、怒ってもゆるす者、
- 38.また主（の呼びかけ）に答えて礼拝の務めを守る者、栗いに事を相談し合って行う者、われが授けたものから施す者、
- 39.迫害に会った時、助け合い、防衛する者、（にとつて、アッラーの御許にあるものこそ、もっとも善であり永続する）。
- 40.悪に対する報いは、それと同様の悪である。だが寛容して和解する者に対して、アッラーは報酬を下さる。本当にかれは悪い行いの者を御好・になられない。
- 41.不当なことをされた者が、自ら守って（報復して）も、これらの者に対して罪はない。
- 42.他人に悪を行い、また度を越した復讐を企て地上を騒がす者たち、かれらに対する（アッラーの）罰は痛ましい懲罰があるだけである。
- 43.だが耐え忍んで赦してやること、それこそ（アッラーの決められた）確固たる人の道というもの。

- 44.アッラーが迷うに任せた者には、その後擁護者はないのである。あなたがたは悪を行う者が、懲罰を見ると、「何とか引返す道はないのでしょうか。」と言うのを見るであろう。
- 45.あなたがたは、かれらが卑しめられて業火に晒され盗・目で見据えているのを見よう。信仰する者は、「復活の日に、自分自身と追従者を失う者は、本当の損失者です。と言う。ああ、悪を行った者は、本当に永遠の懲罰を受ける。
- 46.かれらにはアッラーの外に、助ける守護者はない。アッラーが迷うに任せた者には、（帰る所への）道はないのである。」
- 47.避けられない日が、アッラーからあなたがたの許にやって来る前に、あなたがたの主（の呼びかけ）に答えなさい。その日あなたがたには避難所もなく、（自分の罪を）否認する余地もない。
- 48.もしかれらが背き去っても、われはかれらへの見張り人として、あなたを遣わした訳ではない。あなた（の務め）は、（啓示の）伝達だけである。人間はわれが恵・を味わせると、それにより高慢になる。ところが、自分の手が犯した行いのために不幸に悩まされると、本当に恩を忘れる。
- 49.天と地の大権は、アッラーの有である。かれは御心のままに創られる。かれは、御望・の者に女兒を授け、また御望・の者に男児を授けられる。
- 50.また男と女を混ぜ（て授け）、また御望・の者を不妊になされる。本当にかれは全知にして強力であられる。
- 51.アッラーが、人間に（直接）語りかけられることはない。啓示によるか、帳の陰から、または使徒（天使）を遣わし、かれが命令を下して、その御望・を明かす。本当にかれは、至高にして英明であられる。
- 52.このようにわれは、わが命令によって、啓示（クルアーン）をあなたに下した。あなたは、啓典が何であるのか、また信仰がどんなものかを知らなかった。しかしわれは、これ（クルアーン）をわがしもべの中からわれの望む者を導く一条の光とした。あなたは、それによって（人びとを）正しい道に導くのである。
- 53.天にあり地にあるすべてのものを所有するアッラーの道へ。見よ、本当にすべてはアッラー（の御許）に帰って行く。

SURA 43.金の装飾章〔アッ・ズフルフ〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.ハー・ミーム。
- 2.（事物を）明瞭にする啓典にかけて（誓う）。
- 3.本当にわれは、それをアラビア語のクルアーンとした。あなたがたが理解するために。